

【一般演題3】 第15席 「古代中国医学における各臓器と経絡との対応—心包経・三焦経再考—」

東京 添田 均 東京 及川 ルイ子

十二経絡のなかで従来より論争の対象であった心包経と三焦経が、人体のどの臓器と対応するのであるのか、古代より現在までの各種文献を参照しながら検討を行った。

古代鍼灸の文献は豊富にあり、文献のみで様々な説の解釈・推論を押し進めて行くと、観念的な極めて抽象化された迷路に落ち入り、「三焦に形なし」といった従来の説に惑わされる事となる。もう一度各種文献の根源を探るという姿勢で、国内外を問わず、三焦と心包を論じた文献を検討した結果、近年まったく独自の手法で心包・三焦に対応する臓器について提言した、大村恵昭博士による、Bi-Digital O-RingTest（バイ・デジタル O-リングテスト）に出会った。

今回我々は、未だ未解明ではあるが、人体を利用した現象を手がかりに展開される、O-RingTest による心包経・三焦経論の追試確認の研究を行った。